

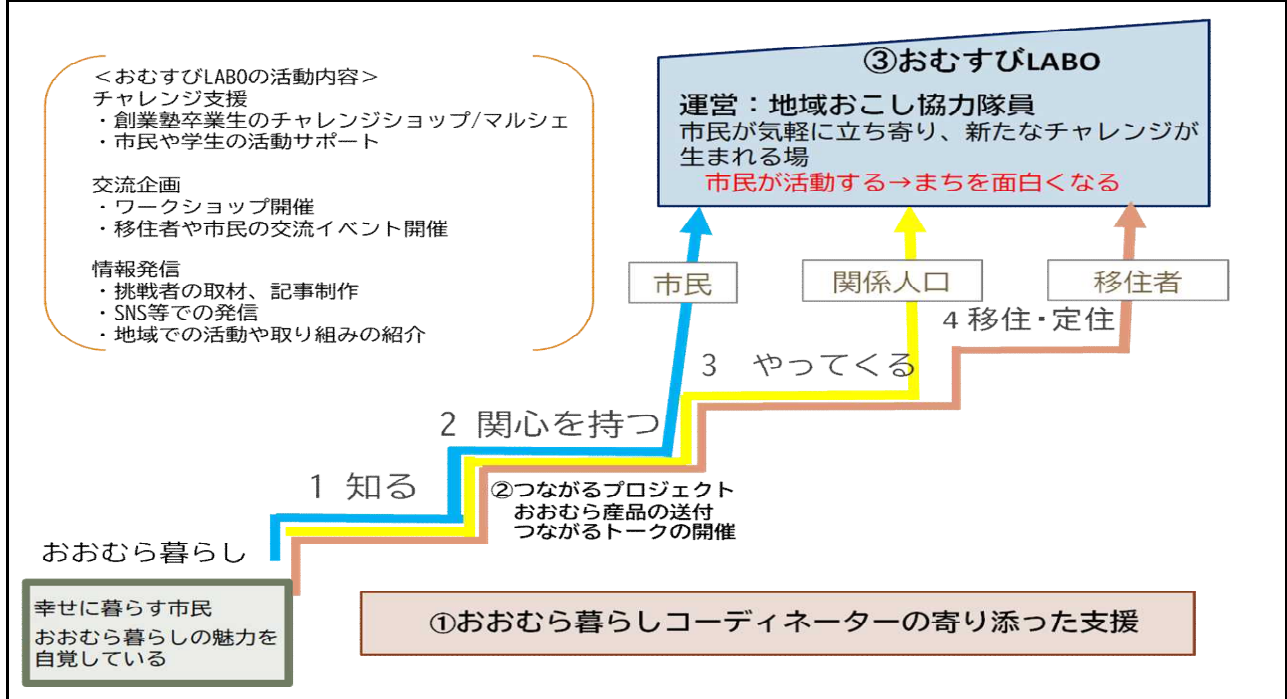
## 事業概要シート

施策	2301	地域コミュニティの活性化	≪≫の金額 現年度当初・補正予算、前年度繰越額の合計 ※補正予算要求時は今回の補正予算額を除く ※次年度予算要求時は次年度繰越額を除く
事業名	交流・Uターン推進事業	拡充	予算額 18,090 千円 ≪ 9,163 ≫千円
事業期間	令和7年度 ~	財源内訳	国庫支出金 3,556 千円 県支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 14,534 千円
根拠法令要綱等			

### 【事業の目的・概要・対象】

(目的)  
 市の魅力を発信し、人と人、地域と人が関わる機会、多様な市民と関係人口とをつなげる場をつくることで、移住・定住や二地域居住の推進、関係・交流人口の創出、地域コミュニティの活性化や市民のシビックプライド醸成を図る。

(概要)  
 ①「おおむら暮らしコーディネーター」の設置（移住・定住促進事業から組替え、名称変更）  
 ②つながるプロジェクト  
 進学や就職により転出した若者に市の産品を送付する。  
 都市圏に住む本市出身者や本市と関わりのある人が集まる交流イベントを首都圏と大村市内とで開催する。  
 ③【**拡充**】**おむすびLABOの開設** ※R7年度からスペース解放、R8年度オープン  
 市民が気軽に立ち寄り、新たなつながりやチャレンジが生まれる場をプラットおおむら1階に開設する。  
 運営は地域おこし協力隊員が担い、創業塾の卒業生によるチャレンジショップやマルシェ、ワークショップ、イベント等の開催と情報発信等を行う。市民が集まり交流を深め、自らの意見やアイデアを反映させて自発的に活動することを応援する交流拠点とする。  
 おむすびLABOの活動や人と人とのつながりによって、自分が住むまちに関心や愛着を持つ市民を増やし、市の魅力を発信することで、大村市に興味を持って関わる関係・交流人口の創出を図る。



### 【背景】

本市は高速交通のアクセスの良さと充実した都市機能に加え、豊かな自然環境や歴史と文化、充実した子育て支援等により人口増加を続けているものの、地域内の結びつきの希薄化や、大学等への進学期や就職期における大幅な転出超過が課題となっている。  
 新旧の市民が混在する本市では「地域のつながりの再構築」や「市民が大村を知り、もっと好きになる」取組や、市内外の多様な人が「関わり続けたい」ための取組によって、シビックプライドの醸成や地域活性化を図る必要がある。

担当課	企画政策部企画政策課地方創生推進室	課長	東 奈美
担当者	小森 温美	問合せ先	0957-53-41111（内線286）

## 事業概要シート

### 【活動指標】

指標名		単位	R 6 (実績)	R 7 (計画)	R 8 (計画)	R 9 (計画)	R 10 (計画)
①	「大村～つながるプロジェクト」公式ラインの投稿回数	回	24	30	30	30	30
②	交流イベントの開催回数	回	2	5	30	35	35

### 【成果指標】

指標名		単位	R 6 (実績)	R 7 (計画)	R 8 (計画)	R 9 (計画)	R 10 (計画)
①	「大村～つながるプロジェクト」公式ラインの登録者数	件	900	1,000	1,000	1,000	1,000
②	交流イベントの参加者数	人	30	40	305	340	340

### 【予算・決算】 (千円)

事業費は当初・繰越・補正予算の合計額

年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計
事業費			9,163	18,090	18,090	18,090	63,433
国庫支出金			148	3,556	3,556	3,556	10,816
県支出金							0
地方債							0
その他			38				38
一般財源			8,977	14,534	14,534	14,534	52,579
人件費			4,332	4,332	4,332	4,332	17,326
職員(人)			0.30人	0.30人	0.30人	0.30人	1.20人
時間外勤務(h)			150h	150h	150h	150h	600h
会計年度任用職員(人)			1.00人	1.00人	1.00人	1.00人	4.00人
フルコスト			13,495	22,422	22,422	22,422	80,759

妥当性 (市の関与)	人口ビジョンで掲げる人口10万人の達成や、持続可能なまちづくりのためには、市民のまちへの関わりやシビックプライドの醸成と、移住者や転出者の回帰、関係・交流人口の創出を促進するような取組みが必要である。
有効性 (施策貢献度)	将来的な地域の活力や持続可能なまちづくりのために、若年層の人口維持や関係・交流人口の創出をは不可欠であり、地域コミュニティの活性化を図るためにも有効である。
効率性 (コスト)	必要最低限のコストで実施するよう計画している。

1次評価	担当者記載のとおり
2次評価	1次評価のとおり